

2001年9月の情報です。

## 平成12年度大気汚染の状況について

### I 大気汚染常時監視測定結果

神奈川県では、大気汚染の状況を科学的かつ的確に把握するため、大気汚染防止法の政令市である横浜市、川崎市、横須賀市、平塚市、藤沢市及び相模原市と協力して、大気汚染物質である二酸化窒素、浮遊粒子状物質、光化学オキシダント、二酸化硫黄、一酸化炭素等の常時監視を行っている。

このたび、県内87地点の測定局（一般環境大気測定局57局・自動車排出ガス測定局30局）における平成12年度の測定結果がまとまったので、その概要を報告する。

#### 1 測定結果の概要

##### (1) 一般環境大気測定局（57局：市街地、住宅地等の生活環境における大気を測定）

物質	環境基準適合状況	年平均値	概況
二酸化窒素 (NO <sub>2</sub> )	57局中55局 (96.5%)	0.027ppm	環境基準適合率は、前年度(86.0%)と比べ改善された。年平均値は平成10年度まで横ばいで推移したが、11年度に0.003ppm下降し、12年度も11年度と同様の値であった。
浮遊粒子状物質 (SPM)	57局中41局(注) (71.9%)	0.035mg/m <sup>3</sup>	環境基準適合率は、前年度(93.0%)と比べて低下しているものの平成10年度までと比較すると、改善してきている。
光化学オキシダント (O <sub>x</sub> )	56局中0局	0.024ppm	昼間の1時間値の年平均値は、平成8年度以降低下傾向にある。光化学スモッグ注意報の発令日数は10日(前年度は4日)であった。
二酸化硫黄 (SO <sub>2</sub> )	55局中55局(注)	0.006ppm	昭和55年度から全測定局で環境基準に適合しているが、三宅島の噴煙の影響による高濃度が観測された。
一酸化炭素 (CO)	10局中10局	0.6ppm	昭和48年度から全測定局で環境基準に適合年平均値は、低い水準で推移

(注)長期的評価([浮遊粒子状物質の評価方法の欄](#)と[二酸化硫黄の環境基準の欄](#)を参照)

##### (2) 自動車排出ガス測定局（30局：自動車の影響を受ける主要道路沿道の大気を測定）

物質	環境基準適合状況	年平均値	概況
二酸化窒素 (NO <sub>2</sub> )	30局中17局 (56.7%)	0.038ppm	環境基準適合率は、前年度と同じであった。年平均値は、11年度に比べて0.001ppm上昇している。
浮遊粒子状物質 (SPM)	30局中14局(注) (46.7%)	0.046mg/m <sup>3</sup>	環境基準適合率は、前年度(66.7%)と比べ低下年平均値は、大幅に低下した前年度に比べると0.003mg/m <sup>3</sup> 上昇しているが、近年徐々に低下する傾向にある。
一酸化炭素 (CO)	27局中27局	1.0ppm	昭和57年度から全測定局で環境基準に適合年平均値は、低い水準で推移

(注)長期的評価([浮遊粒子状物質の評価方法の欄](#)を参照)